

中央観光のジパング号で行っては行けない

観光地

ベスト1

生石高原

Kazutaro V5

1. 生石高原への道

登山口駅で集合した取材班は、私が運転するアベニールで唯一の観光地と目される生石高原へ向かうことにした。もともと登山口という駅名も生石高原への登山口という意味だから、実に正しい取材行動なのだ。

ちなみに生石は「おいし」と読む。だから昼食のとき「生石高原でおいし〜」などという、救いようのないギャグを飛ばす輩が出てくるに違いない。私だけは絶対に言うまいと堅く心に誓った。

県道から市道へと進み、道がだんだん細くなってきた。さらに市道から分かれた道は車一台が通れる幅の道になり、路面は簡易舗装、しかも急坂あり、見通しの悪い急カーブあり、谷底が見える崩れた路肩ありの、まさに林道レベルになってしまった。私はこういう道を好んで走るの、別段何という事はないが、他の4人は大騒ぎ。

「こんな所に中央観光のジパング号できたら切り返しの連続やなあ〜」だの
「中央観光のジパング号では絶対に生石高原へは生きては行けない」だの
「中央観光のジパング号が対向でやって来たらどうする？」だの
「プシュ！プシュ！（エアブレーキの音）」だの
なぜか中央観光のジパング号にこだわって、さんざ騒いでいた。

2. 生石高原

視界が開けてきたと思ったら、まともな舗装道路に合流。札立峠とある。ほどなく生石高原に到着。せいぜいプレハブ造りの売店が一軒あるだけで、しかも寒いから営業してないだろう、などと侮った想像をしていたのだが、生意気にも国民宿舎があり、レストランもあり、驚いたことにミニ天文台やミニ動物園まであり（後述）、想像していたよりまともな観光地のようだ。

生石高原の中心と思われる丘で休憩。この丘の頂には花崗岩質の大岩が顔を出していて笠岩と呼ばれている。御神体になっているらしく小さな祠もある。

我々はここで、写真を撮ったり、周りの景色を眺めたり、箕面市民と無線交信をしたり、「下々の民よ」と叫んだり、と好き勝手なことをした。

笠岩の周りでは、登山スタイルのおじさんおばさんが鍋を始めていた。「うおー、めしめし！」と次なるポイントへ移動する我々であった。



3. 生石高原天文台

なんと生石高原にはミニ天文台があった。空から見たら星形をしているイキな天文台だ。しかも入場無料！素晴らしいじゃああ～りませんか。ただし昼間だけやけどね。夜間は1030円だ。

「本施設には、口径50cmのニュートン・カセグレン式反射望遠鏡を備え、夜の天体観測をはじめ、太陽の観測からビデオ撮影まで幅広く対応できるようになっています。また多人数での観測もできるよう、実習用の望遠鏡、双眼鏡等も設備しております（パンフより）」だそうだ。なんかいかにも「ふるさと1億円」で作りましたよ、ってな感じなのだ。

昼間にする事のない天文台は何をしているか？

なんと地域の交流場や土産屋として機能しているらしい。

1Fの展示室は、白菜やトマトにカキやユズ・醤油や木工製品など地域の特産品の即売場となっていた。商品には出荷した人の名前のついた値札がついている。取材班は、野菜や果物を購入。店番のおばちゃんに話を聞く。

「大阪から来た」というと、なぜか派手に驚かれてしまった。

「道が細くて困りました」というと「星がきれいなのでよく女の子だけのグループで夜間来ると言われるのだけど、必ず男の人と来なさいってアドバイスするんですよ」「???」「ほら、道路があればだから、落ちたとき女の子だけじゃ困るでしょ」

落ちたら男がいても、そう変わらんとも思うが。

(この項終わり)